

## 平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	超高速ハイブリッドカスケード光電荷変調による極限時間分解撮像デバイスと応用開拓
研究代表者	川人 祥二 (静岡大学・電子工学研究所・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、応募者らがこれまで開発してきた高速撮像デバイスを発展させ新たに発明した、超高時間分解能を有し多窓時間分解を可能とする撮像デバイスである「ハイブリッドカスケード光電荷変調素子 (HyCAM)」について、基礎学理の解明からバイオメディカルイメージング等への応用までを目指すものである。</p> <p>本研究は挑戦的で意欲的な提案となっており、学術的重要性が高く、生命科学、先進医療、医学など広い学術領域への波及効果も大きい。また、これまでの応募者の研究実績に裏付けされたものであることから、十分な研究成果が期待できる。</p>